

1- 中学校卒業後の進路について

「進学」

- ①高等学校…全日制（普通科・専門科・総合学科/単位制・学年生）
定時制（普通科・総合学科/授業の時間帯は午前、午後、夜間/すべて単位）
通信制（普通科・専門家/自宅でレポート作成が中心）
※単位制…学年の区別がなく、必要な単位をとれば卒業できる。
選択科目の数が多く、自分で選んで学習する授業が多い。
- ②高専専門学校…5年間の履修
- ③その他… 各種専門学校、専修学校

「就職」

- ・本人、家族の意向を確認しながら職業安定所と連携しつつ進める。
- ・縁故関係の就職であっても、決定後は職業安定所への連絡必須。
- ・中学校卒業者の卒業状況は、かなり厳しい状況である。

2- 私立高校の一般入試について

（1）受験の決定について

私立高校が第一志望の場合は、専願で受験することになる。また、公立高校が第一志望の場合でも、受験の結果によって3年間通学する学校である。各高校の教育目標や校風、コースの特徴などをよく考慮し、十分な検討のもとに受験校を決定する必要がある。

※なお、第二志望であっても入学を前提とした受験であります。合格後は速やかに入学金の納入をお願いします。

（2）入試全般について

・コースについて

私立の高等学校では、普通科であっても様々なコース編成を行い生徒の多様なニーズに対応している。コース別に出願を行う高校がほとんどであるので、各コースの特徴について資料や各校のパンフレットで確認し、志望コースを選択・決定する。

・専願について

その学校を第一志望としており、出願の時に「合格したら必ずその学校に入学する＝専願」と意思表示をした場合、それが入試に多少有利にはたらく場合がある。しかし、合格を保証するものではないので注意。

・二次試験について

いくつかの高校では二次試験が行われるが、対象者は特別な事情で一次試験を受験できなかった人を対象としており、募集人も若干名である。一次試験が不合格であったために二次試験を受験するという事はできない。二次試験をあてにして一次試験を受験しないということがないようにする。

・試験科目について

多くの学校は、国語・社会・数学・理科・英語の5教科であるが、例外もある。

例：小松大谷高校

普通科特進・進学コース…国語・英語・数学の3教科

体育科/普通科教養ビジネス・福祉ボランティアコース

…国語・英語・数学または社会の3教科

学力検査に加えて面接を課する学校も多くあり、学力試験と同様に重視して合格の資料としている。また、面接のない学校も、受験時の服装や態度、様子を観察して合格のための資料としている。学校の多くが、一般試験会場を本校以外に設けている。小松市内にも多数の場合がある。

・合格発表について

いずれの学校も、本人宛に合格通知が届く。

・その他

私立高校では、独自の奨学金制度が確立されている。

3- 公立高校の一般入試について

(1) 受験校の決定について

本県では、一人1校1学科(コース)に限り出願できる。(ただし、小松工業などは第二志望の科を志望できる。また、小松高校は普通科と理数科との間で順位をつけない併願が認められる)各学科の特徴や、入学後の進路について十分考慮して決定する。公立高校は、合格したら必ず入学しなければならない。

・ 志願変更について

全ての公立高校および学科について、一度提出した願書を決められた期間内に他校、および他学科に再出願することができる。志願者数は2月下旬に発表される。しかし、倍率を見て必要以上に不安を募らせたり、安易に志願変更をしたりすることのないように熟考すること。

・ 定時制入試について

学校が発行している資料を参考にして、募集定員や試験内容などは担任に詳細な問い合わせをする。

4 ー 国立高校・高専の一般入試について

国立高専は、一般的には公立高校とは併願できない（国立高専に合格した場合、必ず入学することが原則。公立高校に出願していても、合格した場合は受検しないことになる。）が、国立富山高専は公立高校との併願が可能である。

5 ー 推薦入試について

（1）推薦入試全般について

中学校長から推薦されたものについて、学力検査を行わないで推薦書・調査書などの書類や、面接・作文・実技試験などの結果を総合的に判断して入学を決定する制度である。各学校で独自の推薦基準を設けており、それに合致し、中学校長の推薦を受けた者のみが受験が可能である。

《 推薦入試を希望する場合の手順 》

①12月の三者懇談の際に学級担任に推薦希望の意思を申し出る。

（同時に、三者懇談の日をもって、推薦希望申し出締切日とする）

②志願理由書記入して提出する。

③本校校長を委員長とする推薦委員会にて各校の推薦要件に合致するか検討を行い、校内推薦者を決定する。(すべての人が校内推薦をうけられるとは限らない。)

④推薦の可否を12月下旬から1月上旬までに担任から連絡を行う。

⑤各校推薦入試を受験する。(推薦で受験しても、必ず合格するとは限らない)

推薦入試は、公立私立を問わず、原則として一人1学校に限る。つまり、専願である。

合格した場合は、必ずその高校に入学しなければならない。私立の推薦入試に合格内定した場合でも、2月の学力検査を受検しなければならない。また、推薦合格で不合格になった場合でも、一般入試で再び受検することは可能である。

(2) 私立高校推薦入試について

私立高校のほとんどの推薦入試は、専願である。ただし、公立高校との併願を認める高校もある。また、一部の高校のあるコースでは、部活動において顕著な活躍があった生徒に対し、高校顧問がその力量を認めた者のみ受験ができる。

例：(星陵Pコース)

《 公立高校との併願推薦制度がある高校 》

●小松大谷高等学校…普通科 特進コース・進学コース

●北陸学院高等学校…普通科 全コース

●遊学館高等学校…普通科 全コース

●尾山台高等学校…普通科 特進Ⅰコース 特進Ⅱコース

●金沢学院東高等学校…普通科 進学総合コース・美術デザインコース
進学特別コース

(3) 公立高校推薦入試について

推薦入学を志願できる者は、以下の推薦要件を満たし、中学校長の推薦を得たものである。
また、一部の高校では、各学校が定める推薦要件で推薦入学を実施している。

《 公立高校推薦要件 》

- ①当該学科（コース）を志望する動機、理由が明確かつ適切であること。
- ②当該学科（コース）に対する適正、興味及び関心を有すること。
- ③調査書に優れた点や長所の記録を有すること。

(4) 高専推薦入試について

高専の推薦入試は専願である。合格が内定すれば必ずその高専に入学しなければならない。

6-その他

(1) 書類の提出期限について

学校では、書類の提出期限を各校の入試要項に記載されている、若しくは県教委が発表している期限よりも**数日前に設定**しております。これは、提出に際して記載漏れがないか、書き損じがないかを厳重に確認し、整理・封入して提出準備を行う時間を確保するための時間です。また、不足の事態の備えるためでもあります。どのような書類であっても、校内で設定した提出期限を厳守していただきますようお願い致します。

※(1名の遅れが、他の生徒の遅れにつながる場合がありますので、期限を遅れての申し出は受け付かぬます。)

(2) 奨学金について

いろいろな奨学金制度があります。詳細は、担任の先生までお問い合わせください。
どの制度にも締切がありますので、ご注意ください。